平成２８年５月２０日（金）

洛風だより・ほかほか通信
～保護者のみなさまへ～

京都市立洛風中学校　Ｎｏ．２

「困りごと」のよき通訳者がいれば・・・

（「洛風のＫｉｓｅｋｉ」より）

不登校を経験した生徒は，それぞれに様々な「困りごと」を持っています。そして，その「困りごと」の「痛み」や「辛さ」を伝えきれない，わかってもらえない「痛み」や「辛さ」も持っています。時にそれが「怒り」となって表れることもあります。

その「怒り」をどのように受け止めるか，その瞬間，「今，ここ」が大事です。本気で「わかろうとしている」という誠意が試されていると感じることがあります。

例えば，音を敏感に感じてしまう生徒が，「授業中のあの人の声をなんとかしてほしい」と訴えてくる。確かにうるさいと思えるが，騒音というほどでもない。しかし，音の感じ方が違うと，その「辛さ」が理解できない。その「辛さ」がわからないと，その生徒の訴えが我慢できそうなことのように思ったり，自分勝手な態度に見えたりする。実はその騒々しさが過去の「いじめ」の場面を思い出させていることもあります。そのことが理解できない教師を見て，その生徒は，「わかってもらえてない」といういら立ちから，より激しい口調でせまってきたりする場合があります。それを受ける教師も「どのように言ったらわかってくれるのか」という思いが先にたってしまいます。どちらもわかってもらえない「怒り」のぶつかり合いになり，「わかりあえなさ」だけが続いていきます。

◇そこに通訳者がいれば・・・

そのような時に，その生徒の「痛み」や「辛さ」を想像できる通訳者が居ればたすかります。火事を経験したものは，火の用心にかなり敏感になるかもしれません。**その過敏な反応には「わけ」があるという「ヒント」を与えてくれる通訳者がいれば，自分にも起こりうる反応や出来事として，相手の身になって考えられるのではないでしょうか。「起こりえない」という思い込みから，「自分にも起こりうる」という発想の転換ができれば，「今，ここで，起こっている痛みや辛さ」の理解に向けての「工夫」が見えてくるはずです。**

そこでの通訳者は誰なのか。身近な親や大人，教師，また友達も十分になれる可能性があります。生徒自身であるかもしれません。お互いがよき通訳者になれれば、より信頼関係が深まり，子どものよりよい成長に役立ちます。

保護者の方が，お子さんのよき通訳者でいただければ助かります。

お知らせ　**新たにスタッフが増えました。**

お知らせが遅くなりましたが、５月６日付で、**黒田栞利先生が着任しました。**保健体育及びウイング１を担当いたしますので、よろしくお願いします。

＊5月25日水曜日　１５：３０～「カウンセラーを囲む会　～思春期・子育て・学び合い～」

今年度第１回目の「カウンセラーを囲む会　～思春期・子育て・学び合い～」です